

科目：日文測驗

系所組：跨文化研究所翻譯學碩士班中日組

注意事項：

解答は、試験専用の解答用紙に記入してください。問題用紙には答えないよう注意してください。

解答用紙の1ページ目に、下のように願書提出時に記入した選択言語名を書いてください。

(A言語：\_\_\_\_\_語 B言語：\_\_\_\_\_語)

それぞれの問題にはすべて日本語で解答してください。翻訳ではありませんので、注意してください。

試験時間は90分です。下記の各問題の内容や配点を確認してから始めてください。

問題1 下の二つの文章を読み、それぞれの内容を文章1は150字程度、文章2は200字程度で要約してください。ただし箇条書きではなく短い文章としてまとめ、固有名詞以外は違う表現で言い換えるようにしてください。(25点×2=50)

#### 文章1

今、講ずる手だてすらなく、困っている人がいたら、今、手を差し伸べる。それは政治の原点とも言えるが、現実はどうも鈍い。1月末から記録的な豪雪に見舞われた北陸から北の日本海側の地域…そこに悲鳴を上げている人たちがいる。

雪の量は平年の2倍から3倍、新潟や青森県では3メートルを超えている所もある。除雪するにも、屋根の雪を降ろすにも、捨てる場所がない。出来るのは雪がやむのを祈り、じっと待つだけしかない。

「ともかく排雪を」。テレビから流れる映像が、そう語りかけている。高齢者世帯から伝わってくるのは「助けてほしい」という叫びであり、求められていたのは現地での作業行動だ。誰の目にも国の出番と映ったはずだが、対応はいつもの通りである。

そのさなかにあつた国会議論の野田総理の答弁には、今、が欠けていた。「今年度の予備費や3月に配分する特別交付税の活用などを念頭におきながら、しっかり(対策を)講じていきたい」。現地の人は今、何とかしてほしい、と求めているというのにだ。

天候が回復して、気温が上がったら落雪や雪崩の心配がある。早く排雪して、屋根の雪を降ろさなければ、二次災害を起こしかねない。市町村任せのレベルはすでに超えている。今も、国の出動を待っている人たちがいる。【函館新聞「コラム」】より

#### 文章2

1971年に就航した米サウスウエスト航空は、既存の他社が驚くような低運賃で航

空業界に殴り込みをかけた。その結果、富裕層が中心だった利用者は大衆にも広がっていく。国内線専用ながら、旅客数では世界有数のエアラインに成長した。

着陸料の安い地方空港を利用し、飛行機の機種も1種類にして整備の負担を減らす。駐機時間を短くして運航効率を上げ、機内食も無料提供しない。低価格の背景には徹底的なコスト削減があった。

40年以上前に出現したこのビジネスモデルが、格安航空会社(LCC)の先駆けとなる。最近ではアジアでも、大手より3~7割安い運賃を掲げるマレーシアや韓国などのLCCが台頭してきた。日本への乗り入れも増え、現在外資系10社近くが成田や羽田、関西空港などとアジア各地を結ぶ。

出遅れた日本勢も参入を決め、3社が今年、運航を開始する。先陣を切って3月1日、関空と福岡、札幌間を飛ぶのが、全日空系のピーチ・アビエーションだ。関空-福岡間の片道運賃は3780~1万1780円と、最も安い価格は高速バス並みにした。

社名に合わせて機体をピンクに塗り乗客を楽しませる一方、社内の備品をネットオークションで調達したり、コピー機のボタンに1枚分の経費を記して無駄防止を図るなど、1円単位の節約を進めている。社員にコスト意識をたたき込むためだ。

LCCのシェアは欧米では3割以上だが、日本では数%でまだなじみが薄い。果たして日本で根付くのか。「LCC元年」といわれる今年、格安航空が順調にテークオフできれば、空の旅はより身近なものになるだろう。【毎日新聞「余録」より】

問題2 次の文章の( )に適切な言葉を入れなさい。(2点×15=30点)

日本の植民地時代から70年近く、今も台北で木桶を作り続ける台湾人がいると聞いた。日本では珍しくなった木桶職人。台湾に根付いた日本の職人魂に(1)たくなり、うわさを確かめに歩いた。

工房を兼ねたその店は、台北駅の近くにあった。

風呂桶、洗面器、たらい、腰掛け、おひつ、おたま――。10畳ほどの店内に商品が高く積み、路上にもはみ出している。店の名は林田桶店。さびついて文字が判読し(2)ブリキの看板が、繁華街の中で一際(3)いた。

「この看板は、私が生まれる1年前に初代店主の父が店を開いてから、ずっとかけっぱなしだ。さびついたんじゃないくて、箔が(4)ってこと。ガハハハ……」日本時代に生まれ育った林相林さんは、流暢な日本語を話し、そしてよく笑う。店のある一帯は、戦中まで総督府の職員などが住む日本人居住区だった。「林田」の屋号は日本人に親しみを持って(5)ため、父がそう名付けたという。

林さんは台北の小学校を卒業後、約30キロ離れた基隆市で木桶の製造・販売店を営んでいた神戸出身の職人、鳥井千代松さん（故人）のもとへ住み込みの修業に出された。12歳の時だった。

「桶職人の親を持つからには、それが当然だと思っていたけど、あんな（6）に遭うなんてね」

明治生まれの鳥井さんは、「誰よりも良いモノを作ったけど、怖い人」だった。ヘマをしでかすと「このバカ野郎！」と雷が（7）。

毎朝5時に起き、鳥井さんが起床する7時ごろまでにカンナの刃を研ぎ、道具を整えなければならない。仕事は深夜の12時ごろまで。「食事、トイレ、風呂（8）は休む暇がなかった。今なら労働基準法違反だ。ガハハハ……」

木材の切り出しからカンナがけ、組み立て、木の調整——。単純作業に見えても、確実に仕上げるには年季が必要だ。鳥井さんに時々コツを尋ねたが、「すぐに『バカ野郎！何度言ったら分かるんだ！』って。初めて聞いてもそう言うんだよ、だから師匠の手元を見て技術を（9）んだ」

鳥井さんの元を離れたのは、（10）を始めて3年後。基隆が米軍の空爆を受けた1944年末だった。「米軍機が爆弾落とし始めてね。みんなでトンネルに避難したら、師匠が追っかけてきて『お前、店ほったらかしてどこ行くんだ！』って。日本の職人ってすごいって思ったよ。でも、私は台北に逃げ帰った。」

鳥井さんは戦後、帰国して亡くなった。「今も（11）が上がらないよ。あのしごきがあった（12）、激しい競争に勝ち残れたんだ」終戦から3年。林さんは18歳で父から店を引き継いだ。台湾でも木桶は生活必需品だったが、60年代に安いプラスチック容器が登場すると、台北に約30軒あった同業は相次いで廃業に（13）いった。林田桶店はいつの間にか、台湾で唯一と言われる製造・販売店になった。

「木桶の価値はまだある、意地でもやめるかって頑張ったよ」

最近は美容や健康に敏感な女性を（14）に、木桶を求める人が増えている。「手入れをすれば、どれも10年以上使える。お湯は冷めにくいし、木の香りもして、風呂桶なんて最高だよ」

この人にかかっては、30年以上も一緒に店を支えてきた3代目、息子の煌一さんも（15）幕はない。

「こいつはヒヨコさ。まだ店は譲れないな。ガハハハハ……」

【読売新聞「地球ビックリ箱」より】

問題3 次の文章を読み、文章の結論の部分を150～200字で書いてください。文章は朝日新聞社説「ストップ自殺—足立区の努力に学ぼう」です。(20点×1=20点)

昨年も全国で自殺が3万人を超えた。最多の03年から4千人近く減ったが、いぜん深刻だ。政府の分析では、無職の人が半分を占める。なかでも中年男性の自殺死亡率が高い。妻や夫と離婚や死別をした人も、率が高い。仕事や家庭での「役割喪失感」にさいなまれるのではないかという指摘もある。人との接点が少ないと、気持ちが傾いたときに歯止めがかかりにくいのもかもしれない。だとすれば、接点を作ることで救える命があるのではないか。

参考になる取り組みの一つが東京の下町、足立区にある。

区は09年までの5年間で自殺者が都内最多だったことから、NPOのライフリンクと手を結び、対策に力を入れた。昨年は自殺者が145人いたが、前年に比べれば2割も減った。自殺を考える人の多くは、失業、多重債務、うつなど複数の悩みを抱えている。自殺者の7割は何らかの相談窓口を訪ねていたという調査もある。

ならば、相談に来た人からリスクの高い人を見つけて支えよう。そう考えて窓口や相談機関のネットワーク化を進めた。例えば、失業してハローワークを訪れた人が多重債務や不眠を打ち明けたら、弁護士や保健師につなぐ。それだけでなく、必要な支援を次の窓口で受けられたかまでフォローする。

ハローワーク職員や弁護士、保健師らの専門家がそろって総合相談会を定期的に行っている。危険に気づく力を養うゲートキーパー(門番)研修も区職員の3分の2が受けた。

心を病み、窓口に行く気力もない人もいる。来年度からはNPOに委託し、そういう人に寄りそって一緒に窓口をまわる専門員をやとう予定だ。悩み相談の場や「男の料理教室」といった居場所を探せる検索サイトをつくる計画もある。おもなターゲットは、地域のつながりが薄くなりがちの中老年の男性だ。

内閣府は、この春をめどに自殺総合対策大綱を見直す。一人ひとりに気づきと見守りを促すという方向性は同じだ。もちろん、人口規模など地域の実情によって対策はかわる。高齢者への戸別訪問で成果をあげている地方都市もある。

- ※ 注意：1. 考生須在「彌封答案卷」上作答。  
2. 本試題紙空白部份可當稿紙使用。  
3. 考生於作答時可否使用計算機、法典、字典或其他資料或工具，以簡章之規定為準。